

スカビオサの生育・開花特性

佐藤 路子・児玉きえ子・高橋 昌明

(宮城県園芸試験場)

Characteristics of Growth and Flowering on Scabious (*Scabiosa caucasica* Bieb.)

Michiko SATO, Kieko KODAMA and Masaaki TAKAHASHI

(Miyagi Prefecture Horticultural Experiment Station)

1 はじめに

スカビオサ (*Scabiosa caucasica* Bieb.) はコーカサス地方原産のマツムシソウ科の宿根草である。近年、濃青色から白色の大輪で花梗も強い品種が育成されており、アレンジメント等に需要の伸びが期待されている。本報告では生育・開花特性を明らかにするため品種「ファーマ」を供試し、春切り栽培における播種時期、最低気温管理及び電照の効果について検討した。

2 試験方法

供試品種：ファーマ

試験1 播種時期が開花に及ぼす影響

1990年8～10月の各月15日に播種し、ポット育苗後、8月播種区は本葉8枚時の10月24日、9月播種区は本葉5枚時の10月24日、10月播種区は本葉5枚時の12月17日にプランター (57×18×15cm) に5株ずつ定植して、最低気温5℃で管理した。施肥は以下の試験でも週1回液肥 (N : P₂O₅ : K₂O = 10 : 4 : 8) の400倍液を施用した。供試株数は1区5株で2反復とした。

試験2 温度管理が開花に及ぼす影響

1990年9月3日に本葉4～5枚の購入したセル成型苗をプランターに5株ずつ定植し、最低気温15, 10, 5℃及び無加温で管理した。供試株数は1区5株で3反復とした。

試験3 電照の効果

試験2と同様に定植し、最低気温10℃管理して、電照区は定植後採花まで、植物体上1mの高さに10㎡当り100Wの白熱灯を1灯設置し、午後10時から午前2時まで4時間暗期中断した。供試株数は1区5株で3反復とした。

3 試験結果及び考察

試験1 播種時期が開花に及ぼす影響

主茎の開花期は8月播種区が3月中旬、9月播種区が4月中旬、10月播種区が5月中旬で、播種後開花までの所要日数はいずれの播種時期でも215日前後であった。

側枝は主茎開花後、8月播種区は264日、9月播種区は236日、10月播種区は220日で開花を始め、播種時期が遅れるほど短時間で開花する傾向が認められた。高温のためか花茎の伸長が停止した7月下旬までの採花本数は9月播種区が多かった。

表1 播種時期と採花時期、採花本数及び切花品質

播種時期 (月日)	主 茎			側 枝		
	採花期間 (月日)	切花長 (cm)	切花重 (g)	採花 始め (月日)	採花 本数 (本/株)	切花長 (cm)
8.15	3.18~5.16	69.3	34.0	4.18	3.2	68.8
9.15	4.18~5.10	71.0	37.1	5.9	4.1	66.8
10.15	5.16~6.17	87.6	62.7	5.23	3.3	75.8

注: 側枝は7月23日まで採花

試験2 温度管理が開花に及ぼす影響

無加温区の12月から5月までの温度は図1のとおりで、最低気温-3.2℃、半月別平均では-1.3℃以上で経過した。

主茎の開花は5～15℃区では最低気温が低いほど10日程度ずつ遅れたが、無加温区は5℃区より4日程度しか遅れなかった。切花品質は5℃及び無加温区で優れており、最低気温が低いほど切花のボリュームが増す傾向が認められた。側枝の開花は10℃区が早く、無加温区は10℃区より1か月程度遅くなった。5月までの採花本数は無加温区が多かった。側枝の切花長は10℃及び5℃区で50cm以上あったが、15℃及び無加温区でやや短かかった。

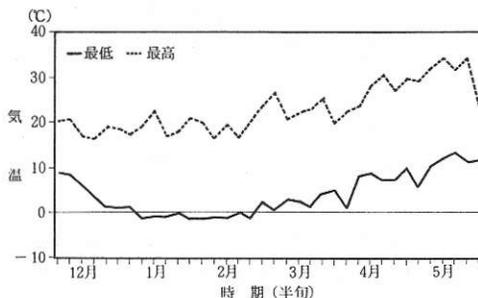


図1 無加温区の時期別温度推移

試験3 電照の効果

電照区は無電照区に比べ主茎で1か月、側枝は2か月程度開花が遅れ、採花本数は少なくなったが、主茎では切花長、切花重が無電照区を大きく上回り、切花品質は無電照区に比べ優れていた。また、側枝でも電照区の切花長が長くなった。

以上の結果、スカビオサ・コーカシカは8～10月ではどの時期に播種しても、播種後215日前後で開花すること、

表2 温度管理と採花時期, 採花本数及び切花品質

温度 管理	主 茎			側 枝		
	採花期間 (月日)	切花長 (cm)	切花重 (g)	採花 始め (月日)	採花 本数 (本/株)	切花長 (cm)
15℃	1. 4 ~ 3. 2	49.2	10.0	3.14	2.8	44.0
10℃	1.14 ~ 3.18	54.1	17.4	2.23	2.3	50.9
5℃	1.24 ~ 4. 1	55.1	26.3	3.12	3.3	52.5
無加温	1.28 ~ 4. 3	55.7	26.5	3.22	4.8	46.8

注. 温度管理: 最低気温
側枝は5月31日まで採花

セル成型苗を9月に定植し最低気温10℃に管理すれば1月中旬に開花を始め, 50cm以上の切花が採花できることから低温短日下でも生育・開花する性質があると思われた。

また, 電照は開花を促進することはないが, 短日期間である冬から春にかけて著しく花茎の伸長を促進し, 切花品質向上に効果が高かった。

4 ま と め

スカビオサの生育・開花特性を明かにするため春切り栽

表3 電照栽培の採花時期, 採花本数及び切花品質

電照 (有無)	主 茎			側 枝		
	採花期間 (月日)	切花長 (cm)	切花重 (g)	採花 始め (月日)	採花 本数 (本/株)	切花長 (cm)
有	2.12 ~ 3.22	82.1	36.2	4.26	1.7	73.1
無	1.14 ~ 3.18	54.1	17.4	2.23	2.3	50.9

注. 5月31日まで採花

培における播種時期, 最低気温管理, 電照の効果について検討した。

(1) 8, 9, 10月の中旬に播種し, 最低気温5℃に管理すれば, それぞれ3, 4, 5月の中旬から7月に株当たり4~5本採花できた。

(2) セル成型苗を9月上旬に定植し, 最低気温を15, 10, 5℃及び無加温で管理した結果, 最低気温が低くなるほど開花が遅れたが, 無加温でも1月下旬から採花できた。

(3) 電照によって主茎, 側枝とも開花が遅れたが, 切花品質は向上した。